

1月分 中学校給食予定表 伊勢原市教育委員会

日付	献立名	エネルキー(kcal) たんぱく質(g) 脂質(g)	主 な 材 料					
		食塩相当量(g)	主に体を作	るもとになる	主にエネルキー	-のもとになる	主に体の記	問子を整える
# (火)	麦ごはん 肉じゃが 揚げシューマイ 小松菜のじゃこ炒め 大根の味噌汁	32.5	豚肉 シューマイ わかめ	ちりめんじゃこ 油揚げ	米 じゃがいも 油	麦 しらたき 砂糖	たまねぎ さやいんげん だいこん	にんじん , こまつな
# (水)	ごはん 白身魚フライ 粉ふき芋 大豆のトマト 煮 青菜のソテー かぶとベーコンのスープ	811 29.8	白身魚フライ 大豆 ベ — コン	(ホキ) 豚肉	米 じゃがいも	油 砂糖	パセリ にんじ チンゲンサイ かぶ ながねぎ	
# (木)	ごはん 牛丼の具 千草焼き ナムル なめこ汁	38.8 29.3 3.1		卵	米 油 ごま	砂糖 でん粉 ごま油	たまねぎ にんにく ほうれんそう なめこ	しょうが にんじん もやし ながねぎ
# (金)	ごはん マカロニグラタン風煮 いかフリッター ブロッコリーの中華和え 果物(みかん)	34.2 24.2 1.8		えび -	米 じゃがいも バタ— 油 ごま油	マカロニ 小麦粉 砂糖 ごま	ブロッコリ—	たまねぎ 、グリンピ―ス みかん
# (月)	麦ごはん マーボー豆腐 春巻き 三色野菜炒め 中華風コーンスープ	32.5 29.7 2.9		豚肉 卵	米 油 でん粉	麦 砂糖 ごま油	しょうが ながねぎ にんじん にら	にんにく キャベツ もやし とうもろこし
# (火)	ごはん 親子煮 じゃが芋のチーズ焼き もやしのゆかり和え 野菜スープ		鶏肉 チーズ	うずら卵 ベ—コン	米 ふ 砂糖	しらたき 油 じゃがいも	にんじん ほうれんそう キャベツ	たまねぎ もやし
# (水)	ごはん さばの塩焼き こぶぴら 白菜の華風漬け かぼちゃの含め煮 豚汁		さば 豚肉	こんぶ 豆腐	米 ごま 油 こんにゃく	しらたき 砂糖 ごま油	ごぼう はくさい かぼちゃ	にんじん しょうが だいこん
# (木)	麦ごはん カツ煮 小松菜のお浸し ピリ辛こんにゃく デザート(ヨーグルト)		ヒレカツ 油揚げ	卵 ヨーグルト	米 油 こんにゃく	麦 砂糖	たまねぎ にんじん	こまつな
# (金)	麦ごはん カレー 温野菜サラダ チキンナゲット	898	豚肉 スキムミルク	大豆 チキンナゲッ	米 じゃがいも	麦 油	にんじん にんにく とうもろこし	たまねぎ キャベツ
# (月)	ごはん デミハンバーグ 人参のグラッセ ジャーマンポテト ブロッコリーの塩ゆで 白いんげん豆のクリームスープ	962 32.9	ハンバーグ 白いんげんま 生クリーム	め 牛乳	米 砂糖 じゃがいも	油 バタ— 小麦粉	たまねぎ にんじん	マッシュル―ム ブロッコリ―
# (火)	ごはん 白身魚の香味揚げ 野菜炒め 生揚げの生姜煮 ひじきソテー キムチスープ	802 35.7 22.1 2.5	しらいとだら 生揚げ ベ ー コン	青のり ひじき 豚肉	米 小麦粉 砂糖	でん粉 油 さといも	たまねぎ は とうもろこし	しょうが んじん もやし くさい だいこん しめじ こまつ
# (水)	わかめごはん 大豆の中華煮 ほうれん草のごま和え かぼちゃフライ 果物(りんご)	31.4 22.9 3.1		大豆	米 砂糖 ごま油	油 でん粉 ごま	にんじん たけのこ キャベツ かぼちゃフラ	たまねぎ しいたけ ほうれんそう イ りんご
# (木)	麦ごはん さわらの照り焼き 人参しりしり 竹輪の磯辺揚げ 白菜のおかか和え 豆腐のスープ	37 21.4	さわら ちくわ ツナ 豆腐	かつお節 青のり 豚肉	米 砂糖 油	麦 スパイスドックミックス ごま油	にんじん たけのこ ほうれんそう	はくさい ながねぎ
# (金)	ごはん 鶏の空揚げ キャベツソテー 切り干し大根煮 いももち どさんこ汁			油揚げ わかめ	米 小麦粉 油 砂糖 じゃがいも	でん粉 しらたき いももち バタ—	しょうが だいこん ながねぎ	キャベツ にんじん とうもろこし

※学校行事や材料などの関係で、献立が変わることがあります。アレルギー食品(27品目)については、献立食品調査票をご覧ください。 ※この献立表の栄養素量については、牛乳を含んだ数字を掲載しています。



- ひ 肥満の学院
- み味覚の発達
- こ言葉の発音はっきり
- の脳の発達
- は歯の病気を防ぐ
- ががんの学院
- い胃腸の働きを促進
- ぜ全力投球

よくかんで食べましょう

<u>が</u>がんの予防

よくかむと、だ液がたくさん出ます。だ液は虫歯予防だけでなく、私たちのからだを守る働きがあります。発がん物質の作用を弱めるのもそのひとつです。

弥生時代の食事はかむ回数が現代の食事の約6倍だったといわれており、かむことの大切さを表すめ邪馬台国の女王卑弥呼にちなんで「ひみこのはがいーぜ」という標語が生まれました。